

パプリカの栽植密度・仕立て法	
[要約] 主枝2本仕立て、株間20cm、畦幅140cm、(主枝本数7.1本/1㎡)で収量が多く、8月は種の加温促成栽培では14t/10a、12月は種の無加温半促成栽培では12t/10aの収量となった。	
農業総合センター鹿島地帯特産指導所	
キーワード	パプリカ、サイショクミツド、シタテホウ

1. 背景・ねらい

近年の食生活の多様化、健康志向の高まりに伴いパプリカが注目され、消費が拡大されつつあるが、現在はその多くが輸入品に頼っている。鹿島南部地域は国内有数のピーマン産地であり、パプリカ生産のための条件を備えており産地の発展、活性化のためにパプリカの導入が期待されている。ここでは、パプリカの安定生産のため、高さ160cm摘芯栽培における収量性、果実品質、作業性に優れる栽植密度、仕立て法を検討した。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 8月4日は種加温促成栽培、12月6日は種無加温半促成栽培において主枝2本仕立て株間20cm、30cm、40cm及び主枝4本仕立て、株間40cmの各区を設け畦幅140cm、主枝160cm摘芯、側枝3~4節摘芯、狭V字誘引で検討した。加温促成栽培の温度設定は最低16℃(11月4日加温開始)とした。供試品種は11年度の品種比較試験で有望とされた赤色種のSPIRITを用いた。
- 2) 加温促成栽培では、主枝2本仕立て、株間20cmが最も多収となった。各処理間で品質的な違いは見られなかった。(表1, 2)
- 3) 無加温半促成栽培主枝2本仕立て、株間20cmが最も多収となった。各処理間で品質的な違いは見られなかった。(表3, 4)

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 両作型で栽培期間中に灰色かび病の発生が見られた。栽植密度が高い場合は防除に気をつける。
- 2) 着果負担が大きいので不良果は摘果する。

4. 具体的データ

表1 促成栽培可販収量 (個)

	個/a								計	上物率(%)*
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月		
主枝2本20cm	429	1000	214	893	929	1893	1143	1429	7929	86
主枝2本30cm	286	857	190	714	881	1381	1000	833	6143	82
主枝2本40cm	304	446	214	411	589	964	1357	964	5249	85
主枝4本40cm	429	696	179	821	696	1446	1607	1143	7017	79

*上物/可販収量×100

表2 促成栽培可販収量 (kg)

	kg/a								計	1果平均重(g)
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月		
主枝2本20cm	73	161	37	163	182	369	199	202	1385	175
主枝2本30cm	49	133	40	126	160	254	164	117	1043	170
主枝2本40cm	54	81	39	75	114	209	231	143	947	180
主枝4本40cm	71	104	34	121	120	279	283	167	1178	168

表3 半促成栽培可販収量 (個)・上物率*

	個/a							計	上物率(%)
	6月	7月	8月	9月	10月	11月			
主枝2本20cm	929	1214	1286	2500	1286	857	8072	57	
主枝2本30cm	762	762	1476	1333	1952	952	7238	63	
主枝2本40cm	464	750	1143	1821	1286	786	6249	65	
主枝4本40cm	928	857	1393	1571	1678	821	7249	56	

*上物/可販収量×100

表4 半促成栽培可販収量 (kg)・1果平均重

	kg/a							計	1果平均重(g)
	6月	7月	8月	9月	10月	11月			
主枝2本20cm	203	221	199	304	149	104	1179	146	
主枝2本30cm	160	146	223	161	214	124	1028	142	
主枝2本40cm	112	151	181	218	138	100	901	144	
主枝4本40cm	192	155	219	204	178	105	1053	145	

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

パプリカの安定生産技術の確立

平成10～14年

鹿島地帯特産指導所